

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970101675		
法人名	有限会社 ヴィラドンナ		
事業所名	グループホーム ステラ		
所在地	高知県高知市棧橋通5丁目6-12		
自己評価作成日	平成28年10月25日	評価結果 市町村受理日	平成29年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームステラでは、少人数である利点を生かしたきめ細かいサービス提供を心がけており、1人1人の能力に応じた対応を行うことによってその人らしい生活を送り、出来る事を一つでも増やしていけるように、職員全体のチームケアによる支援に取り組んでいる。1対1の外出や散歩や買い物への連れ出し、気分転換や自己決定の場面作りに努め、日中・夜間に応じたアロマを使用した利用者の心の安定を導き、ゆとりのあるゆったりとした生活環境作りを心がけている。また、ボランティアの受け入れ等社会資源の活用に取り組むと共に、災害時に備え地域住民や高齢者マンションの方々の協力を得て、避難訓練を実施し、また日頃の取り組みとして階段昇降訓練を実施しており、3階までの昇降訓練を行っている。事業所のビルは地域の津波避難ビルとしての指定を受けるなど、地域に溶け込んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon:true&JkyosyoCd=3970101675-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成28年12月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は交通量の多い幹線道路に面しているが、玄関が道路から奥まっているため騒音は届かず、静かな環境になっている。敷地内に高齢者向け賃貸住宅、宅老所を併設しており、宅老所に出かけ「百歳体操」や作品づくりなどで地域住民と日常的に交流したり、高齢者向け優良賃貸住宅の住民から野菜等の差し入れがあり、また避難訓練も合同で実施するなど、併設を活かした交流を行っている。

職員は、「地域交流」「利用者の尊厳を保ち、心にゆとりある生活支援」の理念に沿って、利用者へ柔軟にサービスが提供できるよう取り組んでいる。地域交流では中学校の職場体験ボランティアを積極的に受け入れ、若年層の認知症理解を深める場としている。また、高齢者向け優良賃貸住宅の3階以上が津波避難指定ビルになっており、利用者は避難に備え訓練の一環として、日頃から階段の昇降練習を行っている。外出では、近くのホームセンターへ散歩に行き、そこで季節の花を見たり、買い物を楽しんだり、心豊かに過ごせるよう支援している。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に地域住民との交流を揚げており、職場理念を玄関等に掲示し、又職員全員に配布し周知の徹底を図っている。月2回のミーティングでは生活環境作りが理念に沿ったものであるか、職員全体で議論・検討し、具体的なケアについて意識の統一を図っている。	「地域交流」「利用者の尊厳を保ち、心にゆとりある家庭的な生活支援」を趣旨とする理念を玄関に掲示し、来所者や職員に周知するとともに、月2回のミーティングで日々のサービス提供が理念に沿っているか話し合い、職員で共通認識を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩や買い物の折には、地域の人と挨拶を交わし交流を図っている。隣接の宅老所の百歳体操や催し物に参加することも楽しみの1つとなっている。6月には中学生の職場体験の受け入れも行い、交流を図ることができた。	日々の散歩や近くのホームセンターへ買い物に行った時に、地域住民と挨拶を交わし日常的に交流を図っている。併設の高齢者向け優良賃貸住宅の住人とは屋上からの花火見物や防災訓練で交流したり、隣接宅老所の「いきいき百歳体操」や、手芸づくり等にも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの見学はいつでも受け入れており、見学だけに留まらず、家族の方の介護の困りごとや、利用できるサービスの支援もしている。又、パンフレットには認知症介護の相談を随時受け付ける事も謳っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地域の民生委員・隣接する宅老所の職員・医療連携を行っているミモザ薬局社長などが参加し、現状や取り組み等について意見交換しサービスの質の向上に努めている。また、会議に出席できないご家族には議事録を送付し、より多くの意見が得られるように取り組んでいる。	会議は、高齢者支援センター、民生委員、看護師、薬局、家族、職員で構成しているが、行政、地域など外部からの出席が少ない。会議は、主として事業所からの活動、事故、研修報告となっている。議事録は、高齢者支援センター、家族に送付している。	市の担当部署、警察署、消防署等地域資源を活用してメンバーの充実を図り、会議の進行も互いに意見交換ができるよう工夫し、出席への働きかけや開催日時の設定等の検討を期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には南部支援センターの出席があり、ケアサービスを提供していく上で生じる様々な課題と、その解決方法についての助言・協力を頂いている。市の担当課へは、相談・報告等を行い運営の協力関係を築いている。	高齢者支援センターとは、必要に応じて運営上の課題について相談し、助言を得ている。市担当課には、介護認定更新時等に窓口に出向いて相談・報告をしている。市福祉課とも、利用者の入退去等で連携している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員は日中の施錠による弊害を正しく理解しており、緊急時以外は施錠していない。認知の周辺症状の悪化により離脱行動に及ぶ方には同行外出し、傾聴、受容、共感による対応で気持ちを汲み取るように心がけている。また、言葉での行動・精神の抑制を防ぐ事も配慮しており、身体拘束は人権侵害である事を職員全員が理解した上でケアに取り組んでいる。	新規職員には、管理者を講師に身体拘束に関する勉強会を実施している。日中は玄関に施錠せず、外出傾向のある利用者には同行し、気持ちに寄り添っている。日々のケアで不適切な対応があれば、管理者がその都度注意している。職員は身体拘束の弊害を理解しているが、定期的な研修は実施できていない。	年間の研修計画を立てるなかで、高齢者支援センターや関連課など行政にも働きかけて所内勉強会へ出席してもらおうなど、職員が研修を受ける機会を増やし、身体拘束防止も含めさらなる資質向上を目指すことを期待したい。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が高齢者虐待防止法に関する理解を深めるとともに、虐待には至らない不適切なケアの段階も見過ごされることが無いように努めている。またケアの提供において、効率優先や一斉介護・流れ作業を見直し、個別ケアを推進するように心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中に現在、成年後見制度を利用している方はいないが、制度の重要性を理解することは必須であり、管理者や職員はミーティング等で制度についての学習・話し合いを持ち、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族が介護に対して持っている不安や疑問、困りごとを傾聴させていただく。そのためにも契約の際には時間をとり、丁寧に説明し何でも相談していただける雰囲気作りを心がけている。また、個別介護サービスについても本人とご家族の了承を得た上で契約を結ぶ。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関下駄箱の上にご意見箱を設置し、どなたでもいつでも当施設へのご要望やご意見を投書できる。運営推進委員会や家族会においても、意見・要望を出していただけるようにしている。また来所時には個別にご意見等をお聞きしている。	年1回家族会を開催しており、出席家族の意見や要望を聞くほか、面会時には利用者も含め要望等を聞き、運営に反映するよう努めている。また、直接言いにくいことは意見箱を設置し、投書できるようにしている。3ヶ月毎のケアの見直し時にも、家族等の意向を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員間で、意見や提案を出しやすい雰囲気作りができています。そして、それらを月2回のミーティングや勉強会等で検討し、サービスに反映させている。内1回のミーティングには代表も出席し、職員の意見を把握している。	月2回のミーティングや勉強会で、職員の意見や提案を聞いている。職員一人ひとりに法人代表が聞くこともあり、業務内容、物品購入、利用者へのケア等について様々な提案を出しやすい環境にある。提案事項は事業所の運営、業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるように、勤務体制等に配慮している。また国の介護職員処遇改善加算制度を利用し、給与面においても考慮していき職場環境・条件の改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修の情報提供をし、推奨する研修は半額負担している。月2回のミーティングにおいて報告会を開き、職員全員が内容を把握するように努めている。また、グループホームでの様々な取り組みについて指導して下さる講師を招き、勉強会を持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会に加入しており、3ヶ月に1回の連絡協議会に参加して関連ホームとの情報交換、勉強会を行っている。またその他の研修会においてはサービスの質の向上を図るべく、他ホームとの連携をとり参考資料や情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で、ご本人が今までどのような人生を送ってこられたのか、又これからどんな生活を望むのか、困っていることや心配事は何なのかを把握するために、ご本人やご家族又は、居宅のケアマネジャー・病院の相談員からも情報を集め、生活歴の聞き取りを入念に行うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とご本人との関係や、今までの苦労・困難、喜びや楽しみも含めて、ご家族の状況・立場を十分把握するように心がけている。その為にもこれまでの経緯についてゆっくりと、時間をかけて聞き取りを行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」必要としているサービスを、出来る限り柔軟な対応で行うように努めているが、入居のニーズに応えられない場合もあり、その時は他の事業所のサービスにつなげる事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が持っている能力や可能性を見極め、現在の生活能力をできるだけ維持し、協働する事で生きがいややりがい感をもってもらっている。利用者は介護されるだけの立場ではなく、共に支えあいながら生活している家族である喜びを、感じてもらえるような関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族とは電話や手紙での対応を密にし、利用者に心身の状態等変化があれば、その都度連絡を取るようになっている。又、家族会を開催しご家族間の連携もとるようにしている。来所時には近況報告と共に家族の思いも傾聴し、きめ細かい対応を心がけている。又、職員も同じ思いでご本人を支えるように心がけている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族・友人・知人の訪問は、いつでもどなたでも快く受け入れている。外出レクリエーションや通院の際に、馴染みの場所に出向き、友人・知人と会話する機会を設けている。又、ご家族の協力も得て、家族の年中行事等に参加できる様支援に努めている。</p>	<p>家族や友人が来訪したとき、ゆっくり話せる環境をつくって関係が継続するよう支援している。家族の協力で一時帰宅したり、墓参りに出かけるほか、職員とドライブで日曜日や美術館などに行き、馴染みの人と出会う機会もつくっている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者1人1人の個性を尊重し、調和のとれた雰囲気作りを心がけている。利用者同士の関わりの中で、お互いが刺激し合い思いやりを持って生活できるよう、職員が働きかけ調整役となっている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス利用が終了しても、ご家族とは電話や手紙で連絡を取り合っている。また、退居先からの相談も受け、フォローにも努めている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の言葉には出さない思いや希望を、日々の関わりの中で、表情や動作から把握できるように心がけている。また、少しでも変化があれば、気づきを連絡ノートや現場でも職員に伝え、情報を共有している。またミーティング等で確認も行っている。ご家族や関係者からの情報把握にも努めている。</p>	<p>利用者の思いや意向は、日々のケアの中で把握に努めている。会話できる利用者には聞いた思い等を日誌に記録し、難聴の利用者には、聞き取る方法を工夫して意向を確認している。把握した思い等は、ミーティングなどで職員間で共有し、検討してケアに活かしている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>個人情報保護を前提とし、併せて守秘義務が有る旨を家族、来訪者等に理解を頂いた上、情報提供をお願いしている。また、入居後も信頼感を深めながら、折に触れ情報を得るようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	規則正しい生活を原則としながら、「活動と休息」のバランスに配慮して個々の生活リズムを把握し、「出来る事」を多く取り入れた生活を目指している。ミーティングでの状況把握の確認、情報の共有をはかり、生活力の維持向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービスの質がスタッフによって差がないように、日々の介護サービス提供の記録を正確に記録するように努めている。又、モニタリングの時点でご本人、ご家族の要望・意見を聞き、ミーティングでそれらをスタッフと確認した上で、サービス計画を作成している。	介護計画は3カ月毎に見直している。日々のケアの中で利用者・家族の意向を把握し、月2回のミーティングの内1回はサービスについてのカンファレンスを行い、職員全員が参加し検討している。状態が変化した場合は、その都度計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに日々の様子、気づき等を記入し、バイタル、食事分量、排泄状況、入浴、体重、服薬状況を個々記録し職員全員で確認をしている。また、それらの情報を計画の見直しや評価に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望があれば、併設する宅老所への訪問も自由に行える。高齢者優良マンションの住人の方々と、交流を図れる環境になっている。また、利用者の変化に応じて支援やサービス提供の多様化を検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回の運営推進会議には民生委員、町内会長、地域包括支援センター職員等に出席いただき、地域周辺情報の収集・交換をし、協力関係も築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	利用者、ご家族の了承の元に内科は月2回の往診を受けている。又、希望者には入居までのかかりつけ医の受診を支援している。利用者の心身の異常の早期発見に努め、仔細変化についても指導・助言をいただけるように連携を取っている。利用者の安全・安心を継続できるように、ご家族とも協力しあっている。	利用者・家族にかかりつけ医の希望を聞き、現在は殆どの利用者が協力医をかかりつけ医として月2回の往診を受けている。他の医療機関への受診は、原則家族が事業所からの情報提供書を持参して、付添っている。結果は事業所・家族が連絡しあい、事業所の個人記録に記載して職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回、訪問看護の定期的な健康診断を受けている。個々の状態を説明相談し具体的な指導をして頂き、適切な医療利用に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院によるダメージを少なくするため、医療機関との連携を密に取っている。入院に際しては相談員や看護職等に、連絡事項を書面をもって伝え、家族と連携をとり情報交換をし、医療との連携のよりよい改善または症状について確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所では重度化した場合は、主治医を通じて医療機関での適切な治療を受けて頂く方針であり、入居時に利用者・ご家族に方針についての説明・同意を得ており、医療機関との協力関係を築くことに努めている。	重度化した場合の事業所の方針を入居時に説明し、本人・家族の同意を得ている。法人の方針として、病状が重度化したときは主治医と相談し、入院して終末に向けた治療を受けることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急のマニュアルを作成し、全職員に周知、徹底を図っている。職員は救命救急の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回開催し、夜勤者1人での対応には無理がある事から高齢者優良マンションの住人の方にも協力を頂いている。また、地震災害等に対して、港連合自主防災会にも出席させてもらい、地区の方々の理解を得られるように努めている。事業所ビル自体が津波非難ビルに指定されている。	火災訓練を年2回消防署の協力を得て実施し、高齢者向け優良賃貸住宅の住人も参加している。高齢者向け優良賃貸住宅3階以上が、津波避難ビルに指定されており、利用者は日頃から3階まで自力で避難できるよう、昇降訓練している。非常用飲料水、食料を3日以上備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的人権の尊重と尊厳保持に努めている。特に排泄に関する事柄ではプライドを守り、プライバシーを侵さないよう対応の仕方に注意を払っている。	利用者一人ひとりの人格とプライバシーに配慮し、トイレ誘導では、耳元で声をかけたり、部屋のポータブルトイレの上に布をかける等の支援をしている。来訪者のある時は、職員間での情報交換の際、プライバシーが他に漏れないよう注意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の個性に合わせた対応に努めており、買い物、食事、更衣等様々な場面において利用者が自分で選択し自分で決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本理念にも、「ゆったりとした家庭的雰囲気の中で、ゆとりある生活を支える」とあるように利用者1人1人のペースで生活リズムを作り、買い物や散歩を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の洗顔、口腔ケア、頭髪ブラシ等の整容を行っている。外出時にはお化粧品したり、アクセサリを身につける等のおしゃれの支援をしている。又、更衣では服の選択等、自己決定を優先している。出張美容の訪問を受けて、それぞれ希望するヘアスタイルを選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お米を研いでいただいたり、テーブル拭き、配・下膳、食器洗いや食器拭きなどの食後の後片付けを、利用者各々の能力に応じた役割を持っている。また、利用者と職員とが同じテーブルを囲み、同じ食事を摂っている。	献立は職員が交代で、栄養バランスに注意しながら、1週間分を目安に作成している。行事食や利用者の希望も取り入れ、職員は利用者とは会話しながら、一緒に食事を楽しんでいる。利用者は、米をといだり、下ごしらえ、味見、後片付けなど個人の能力に応じて参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎回記録し、スタッフ間で情報を共有している。職員が作成したメニューをもとに、調理した食事を利用者に合わせて形態にして提供している。季節の物を取り入れるようにし、利用者と一緒にメニューを考えることもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけをし、利用者の能力に応じて見守りや介助を行っている。就寝前には義歯の方は義歯洗剤を使用し、清潔と衛生を保つようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、1人1人の排泄パターンを把握するように努めている。トイレの声かけ、誘導を行い、トイレでの排泄を促すように紙パンツから、できるだけ布パンツに移行出来る様に、自力での排泄・更衣の習慣化に向けて取り組んでいる。	各利用者の排泄チェック表によりパターンを把握し、トイレへ誘導している。夜間はポータブル使用の利用者もいるが、なるべくトイレでの排泄ができるよう支援している。入居時にリハビリパンツだった利用者が、支援により布パンツとパッドの併用に移行できた事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、できるだけ薬に頼らない自然な排便を目指し、乳製品や繊維質の多い食材を多く取り入れたり、プルーンや野菜ジュース、青汁の積極的な利用、又、ふかし芋やバナナを日常的に提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2～3回午後の時間帯に入浴をしているが、汗をかいたり、汚れたりした場合は必要に応じて入浴又はシャワーができる様に柔軟に対応している。	利用者が汚れた時や希望により、入浴・シャワー浴を随時支援している。入浴が自立している利用者もいるが、利用者の状態に配慮し一部介助や見守りを支援している。現在、入浴を拒否する利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の、個々の心身状態にあった休息のとり方で自由に過せるようにしている。又、活動と休息のバランスが取れるよう個々の睡眠リズムを大切にすよう努め、アロマも利用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録の中に服薬ファイルがあり、職員が内容を把握できるようにしている。服薬管理は毎回チェック表に記入しながら注意し、投薬時には、職員間の声掛け、日付や記名の読み上げを行っている。服薬変更や臨時薬の処方があった際には、個人記録、連絡ノートに記載し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者1人1人のレベルと能力に応じた役割を持つように、支援している。利用者の「人の役に立ちたい」という思いを大切に、趣味や楽しみ事を取り入れて、気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に配慮しながら、日常的に近隣への散歩、買い物、喫茶に出かけている。週1回の外出レクリエーションでは、1時間程度の外出を楽しんでいる。又、ボランティアの協力も得て、季節の花見や催し物等の外出支援も行っている。	日常的に散歩や、近くのホームセンターに出かけ、展示の花を見て楽しみ、買ったりしている。また、時々喫茶店や回転寿司にも出かけている。週1回のドライブでは、利用者の希望に沿って、コスモスや菊などの季節の花を見に行ったり、日曜市や美術館へ行く支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお小遣いを預り、事務所で管理している。散歩がてらに自動販売機で飲み物を自ら買われたり、プリコで花や日用品を購入する時は所持金で支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されれば応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には鉢植えがあり、利用者自ら選んで購入し植えた花や植物が咲いている。また玄関、食卓には生け花を置き、季節感を出している。リビングの壁には、季節の行事を感じさせる飾り付け等の工夫をしている。リビングフロアでは利用者の好む音楽をかけて、ゆったりとした居心地の良い場所を提供している。浴室、トイレは利用者が気持ちよく、安心かつ安全に使用できるように、常に清潔保持に努めている。	玄関脇のプランターでは、利用者が花や野菜を育てて楽しんでいる。居間兼食堂には季節行事の飾り物を配置し、壁にも飾りつけをして、季節感に配慮している。また、利用者が活けた花を置き、利用者が好む音楽を流して、ゆっくりくつろげる空間にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地の良い空間作りを心がけて、仲の良い利用者が隣同士になったり、また時々席替えをして新しい雰囲気作りをしている。しかし、共用空間のなかで1人になれるといったスペースは設けられていない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族の協力を得て、写真やご本人の好む物で飾ったり、馴染みの品や愛着のある物を置いている。また、毎朝利用者も一緒に部屋の掃除をし、清潔で安心して落ち着ける空間作りを行っている。	居室には、利用者一人ひとりの好みや個性に合わせ、家族の写真や人形を飾ったり、机、椅子、タンスなど馴染みの物が、利用者なりにレイアウトされ、落ち着いて過ごすことができる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間において利用者の動線上はほぼ段差のないバリアフリーの状態であり、廊下、居室に手摺を設置して利用者の安全確保を図っている。またシンク、調理台、テーブルの高さは利用者に適していると思われる。居室、フロ、トイレの所在等の表示をし、1人1人に合わせた環境作りを心がけている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				